

# Newsletter No.40

一般財団法人 **京都国際文化協会**  
Kyoto International Cultural Association

〒606-8546

京都市左京区粟田口鳥居町 2-1  
京都市国際交流会館 3F

Tel: 075-751-8958

Mail: [kica@kicainc.jp](mailto:kica@kicainc.jp)URL: <http://kicainc.jp/>

## イスラム世界に目を向ける

柴田 重徳（京都市国際交流会館館長）

イスラムというと、シリア、イラクなどの国々の騒動、宗派对立、テロなどを思い浮かべる人が多いかもしれません。イスラム世界のニュースは、日本ではあまり報じられることは少ないうえに、良いニュースは特に少ないと思います。

イスラム教は、宗派对立による殺し合いなどのために暴力的と受けとられることも多いですが、本来のイスラム教は平和的で平等を旨とするもののようです。現在の状況は、政治的な環境によってもたらされていると考えるのが正確だと思います。

断食月ラマダンなどの習慣も、理解されているとは言えないでしょう。大相撲の大砂嵐関が本場所の期間がラマダンに重なったとき、連日、空腹に耐えながら相撲をとり続けたことは、ニュースでも大きく取り上げられました。ラマダンも、食事ができることのありがたさを実感し、食べられない人たちのことを考える機会だということです。

私は、イスラム諸国の魅力にはまっています。訪れたことがある国は、モロッコ、トルコ、北キプロス、乗り換えのために数時間過ごしたカタールくらいしかありませんが、中東、アフリカの国々の友人、知人はたくさんいます。友人たちの国に親しみを覚えるのは当然ですが、トルコ、イラン、シリアなどは、長い歴史の中で築かれた無数の遺跡にロマンを感じています。特にトルコには友人も多いため、これまでに4回訪れ、今年も旅行を計画しています。ひとなつこく、もてなし好きの人々との交流は、大変うれしいものです。

トルコを含めた中東の国々の音楽が大好きです。コブシの聞いたメロディは、日本の演歌につながる心地よさがあります。また、ウードというリュート、ビワ、ギターなどの元祖と言われる楽器の音がとても気に入っていて、よく演奏会に顔を出しています。尺八の元祖と言われるネイという楽器も大好きです。トルコ、イランその他の国で演奏されています。

イスラム世界は、古くて遅れたところというイメー

ジがあります。確かに、西欧の近代文明に遅れをとったために、多くの国が植民地化されました。その後遺症が現在も多くの紛争などの原因となっています。現在の国境線は、西欧列強が恣意的に引いたものが多いために、たとえばクルド人の住んでいる土地が数カ国に分断され、それぞれの国でクルド人たちは少数派として抑圧されています。

しかしながら、歴史を遡れば、イスラム世界は、科学や芸術の最先端にあり、ヨーロッパなどは、はるかに遅れたところであった時代の方が長いでしょう。

中東イスラム諸国の人々は概して親日的だと言われます。その理由はいろいろあるでしょうが、ヨーロッパ諸国と違い、日本はこれらの地域に侵略した歴史を持たないことが大きいと思います。そして、西欧に遅れて近代化しながら、世界でトップレベルに科学や産業が発達したところに、自分たちのモデルとなり得ると思えることも挙げられます。

近年、世界最大のイスラム国であるインドネシアの発展が目覚ましいことは喜ばしく、日本との経済的な関係も拡大しています。京都でもインドネシアからの留学生が増えてきています。インドネシア、マレーシアなどからの観光客も目立つようになりました。中東の国々からの観光客も増えることが期待されています。最近、京都でもイスラムの人々の食習慣を尊重したハラルフードを提供するところも増えつつあります。礼拝の場所の確保も少しずつ配慮されるようになりました。

イスラム教の人口は世界で16億人とも言われていますが、人口増加の割合が高い国が多いために、いずれ宗教別でイスラム教徒が最大になると言われています。そのように重要な世界の文化や人々に、日本人としても、もっと関心をもっていくことが望ましいと思います。そのために、色々な分野で、イスラム世界に関する情報をもっと増やす努力が必要ではないでしょうか。

## ■ 2014 年度 基礎から学ぶ実践日本語教育講座(中・上級編)

### 様々な考え方で新しい評価基準を取り入れた教材作りを体験しよう(中・上級編)

1年間で2期(前期10回、後期10回)に分け、様々な中級レベルの教え方を学んでいきます。講義だけでなく、ワークショップ形式を取り入れ、グループで考え、学び合いながら、教え方のコツを学びます。また社会文化的見地から、京都という環境に配慮し、和食や京言葉も含むテキスト(中・上級対象)の作成を参加者のみなさんと共に進めます。

主催:(一財)京都国際文化協会 共催:京都市 後援:京都府、(独)国際交流基金、(公財)京都市国際交流協会

#### 2014 年度講座カレンダー

講師:(独)国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員 岩澤和宏、中島透、香月裕介

##### 前期 中級日本語の考え方や教材作成パート1

目標:中級における様々な授業形態を概観し、実際に中級対象のテキストを作成する

1	4/5	中級概観	日本語教育で言う中級とは(中級編)
2	4/19	授業例一般	一般的な中級の授業について(中級編)参考教材紹介
3	5/10	テキストを作る①	教材サンプルの提示、方針の検討。作業グループと日程確認
4	5/24	テキストを作る②	原稿(本文・語彙・質問)の提示、意見交換、修正。レベルの確認
5	6/7	授業例「話し合う」	ディスカッション:文化を取り込んだ授業例を体験する
6	6/21	交流授業	インタビュー:教室外での情報交換(中級編)
7	7/5	テキストを作る③	作業グループと日程確認。教材作成の反省会
8	7/19	テキストを作る④	作業グループと日程確認
9	9/6	授業例「書く」から「話す」へ	スピーチ作成の授業例を学ぶ
10	9/20	テキストを作る⑤	原稿(本文・語彙・質問)の提示、意見交換、修正。レベルの確認

##### 後期 中・上級日本語の考え方や教材作成パート2

目標:中・上級における様々な授業形態を概観し、実際に中・上級対象のテキストを作成する

1	10/4	中・上級概観	日本語教育で言う中・上級とは(中・上級編)
2	10/25	授業例「書く」から「話す」へ	スピーチ作成の授業例を学ぶ(中・上級編)参考教材の紹介
3	11/8	授業例一般	一般的な中・上級の授業について(中・上級編)
4	11/22	テキストを作る①	教材サンプルの提示、方針の検討。作業グループと日程確認
5	12/13	テキストを作る②	原稿(本文・語彙・質問)の提示、意見交換、修正。レベルの確認
6	1/10	授業例「話し合う」	ディスカッション:文化を取り込んだ授業例を体験する
7	1/24	交流授業	インタビュー①:教室外での情報交換
8	2/7	交流授業	インタビュー②:教室外での情報交換作業をまとめ、発信する
9	2/21	テキストを作る③	作業グループと日程確認。教材作成の反省会
10	3/7	テキストを作る④	原稿(本文・語彙・質問)の提示、意見交換、修正。レベルの確認

\*担当者入れ替えなどの都合で内容を一部変更することがあります。

会場:京都市国際交流会館 3F 研修室(地下鉄蹴上駅 徒歩5分)

606-8536 京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1

日時:毎回土曜日 10:00~11:55

費用:協会年会費 5,000円 教材費:前期 10,000円、後期 10,000円

### 基礎から学ぶ実践日本語教育講座について

岩澤和宏

国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員

#### <2013年度の講座を振り返って>

「日本語教育の場ですぐに役立つ知識や技能を身につけたい。」現場のそんな要望にお応えする形で始まったのが2012年度版の「講座」でした。2013年度の「講座」では、日本語教師としての知識や技能に加えて、言葉や文法をどのように捉えてどう教えたらよいかを一緒に考える活動やワークショップを多く取り入れました。

言葉の教え方に決まりはありません。学習者の目標やニーズによって、教え方も変えていかなければなりません。全ての教育現場で使える教え方などありません。日本語教師は、それぞれの場面で一番良い教え方を考え出さなければなりません。

「講座」では、その日の基本的な項目を確認した後でワークショップ形式を多く取り入れました。海外の日本語講座や国際交流基金での実践なども紹介しましたが、受講生同士のアイデアもたくさん共

有できたものと思います。現場を知っている方のご意見はたいへん貴重でした。受講生の鋭いご指摘やご意見を通して、共に学ぶことができたことと思います。

#### <2014年度講座の目指すところ>

2013年度の「講座」は初級～中級を扱いましたが、2014年度では中上級に焦点を当てた「講座」にしたいと思います。言葉だけではなく、京都という地の利を活かした文化紹介も視野に入れ、教材作成の実習も行いたいと思います。

中上級の言葉や文法をどう説明するかということだけではなく、ワークショップや教材作成などの活動を通して中上級の教え方を学んでいただければと思います。

#### 『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』を受講して

この講座で、学習者に、授業で習った日本語をしっかり身につけさせるために、どのような工夫があるかを学びました。例えばある文型の導入後に、その文型が出てくる聴解や読解の教材、ゲームなどを授業にふんだんに取り入れ、その文型を繰り返し練習させ定着させるという方法は非常に参考になりました。先生が紹介されたこうした授業例だけでなく、「授業へのアドバイス」も印象に残っています。

高岸 雅子

中でも、「文型導入前に、その文型が自分の生活でどのように使われているかを振り返ってみたらよい」というアドバイスをいただいてから、「学習者にもできるだけ日常場面で使えるように指導したい」と以前より強く思うようになりました。このように長年日本語教育に携わっている私にとっても学ぶことが多い講座でした。

#### 中込先生のマニラ便り

#### ジブニー

ジブニーというのは米軍ジープを前後に引き伸ばしたような車で、これがマニラ庶民の移動手段です。このジブニーに乗るのは最初はちょっと勇気が要りますが、乗ってみると楽しい体験ができます。運転手に料金を支払う際、座ったままお金を運転手の方向に突き出すと、誰かが黙って取って、リレーのように運転手に渡してくれます。おつりもちゃんとリレーで戻ってきます。なんだか昭和のご近所付き合いを彷彿とさせ、フィリピン人の一員になったような気がします。

自分が外国人になってみると、そのコミュニティーに加えてもらったという感覚は嬉しいものです。昨年のASEAN40周年や東京オリンピック決定で今後ますます京都には外国からの訪問者が増えることと思います。「おもてなし」として、外国人扱いするのではなく、友人の輪に加えてあげるような「日本語教育」をみなさんに形作って頂きたいと思っています。



#### 栗原先生のハノイ便り

#### ハノイは早起き

6時半、ようやくハノイの夜が明けたころ、観光バスが眠そうに警笛をはきながら走り過ぎて行きます。そしてまだ薄暗いうちから朝ごはんはいかがかと店が出ます。鶏肉に香菜のフォー、もちもちとしたおこわご飯、湯気たっぷりのお粥です。一つ50-150円程度でしょうか。プラスチックの椅子が低いせいかしゃがんでかきこんでいるように見えます。ベトナム名物のこの露店やオートバイの波もこの先5-10年で姿を消していくのだと思います。急激な経済の成長に、生活も様変わりする、そんな勢いを感じます。早起きのハノイの街は朝から活力に満ちています。

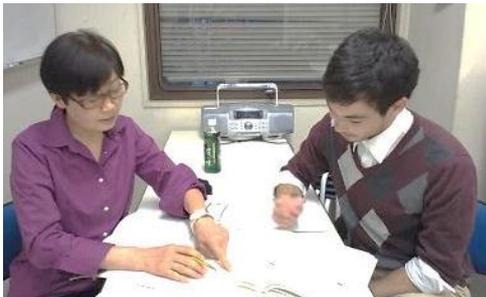


(中込先生、栗原先生は、昨年と一昨年の日本語教育講座講師です。現在、国際交流基金から派遣され、フィリピンとベトナムで現地の日本語教育指導にあたっておられます。)

## ■ 国際交流プログラム

### ✦ 日本語ボランティアレッスン

「基礎から学ぶ実践日本語教育講座」修了者の中から日本語ボランティア登録をしていただき、学習者とボランティアの条件を考慮しながらマッチングのお世話をしています。レッスン内容・場所・時間は、学習者とボランティア双方の希望や都合で決めていただいています。レッスンは主に、当協会事務局、または国際交流会館1階ロビーで行っています。日本語レッスンをご希望の方は、当協会までご連絡ください。



ボランティアの塩崎さんとパトリックさん

### ✦ 色鉛筆教室

色鉛筆教室は、3年目に入りました。今年は6月にグループ展を行います。講師はKICAのボランティア・レッスンで日本語を勉強しておられるティツィアーナ・サンタニエッロさんです。ティーブレイクをはさみ、和気あいあいと楽しく描いて



(画 内藤)



(画 竹谷)

色鉛筆教室グループ展: 6月3日(火)~8日(日)  
於京都市国際交流会館 2F



(画 久富)

## ■ 国際茶会

秋晴れの10月19日(土)、裏千家茶道センターにおいて33回国際茶会が開催され、外交官、学術関係者、留学生とその家族など約390名が招かれました。裏千家で茶道を学ぶみどり会の留学生や在日外国人対象の茶道教室(ICI - International Chado Institute)の生徒のもてなしで、薄茶点前をいただきました。日常の慌ただしさから離れ、静かなひとときを過ごしました。



写真提供裏千家

## ■ やさしい日本語

1989年京都市国際交流会館の開館と同時に日本語教室が開講され、当協会は主催者の京都市国際交流協会の依頼を受けて、当初から教材開発と講師派遣を担当し、25年目になります。

クラスは2レベルあり、年4期、各期3か月12回のコースです。在外外国人の方々の日本での生活、地域の人たちとの交流・相互理解の一助になることを目標にしています。学習者は京都という土地柄を反映して、学生・研究者・芸術家などが多いのは当初から変わりませんが、最近是一般の会社員や日本人配偶者・子弟で永住するつもりの方も増えてきました。また日本語学習を滞在目的に組み込んだ観光客や短期滞在者などもおられます。



初級クラス



入門クラス

2014年度スケジュール(各期12回、毎週金曜日)

第1期:4月4日～6月27日

第2期:7月～8月(火・金 週2回)

第3期:10月～12月

第4期:2015年1月～3月

入門 午後1時半～3時半、6時半～8時半

初級 午後6時半～8時半

場所 京都市国際交流会館

費用 各期7,000円

問合せ先:(公財)京都市国際交流協会(075-752-3511)  
当協会(075-751-8958)

## ■ KICA セミナー

毎回、日本語教育・異文化間交流、日本文化等の専門家をお招きしてご講演いただいています。時代のニーズに合う、具体的・実践的な内容で、ワークショップ形式のものもあり、好評です。

第1回・2回:2013年12月22日(日)

講師:大久保雅子

早稲田大学日本語教育研究センター

テーマ:効果的な母語別発音指導の方法

午後の時間をいっぱい使って、発音指導の集中講義をしていただきました。母語の影響が現れやすいため、教育現場では「どのように指導したらいいかわからない」という声が多く聞かれます。特に、教室には様々な母語を持つ学習者が集まることも多く、発音指導に悩んでいる指導者が多いようです。

授業中に学習者の発音上の問題点を指摘して、ただリピートさせるだけでは、発音習得を促すことは難しいという現状があります。発音指導にはどのような方法があるのか、どのように指導すればいいのか、発音指導を授業に取り入れる方法を紹介してくださいました。また、ワークショップ形式で、参加者が実際に発音指導の具体的な例を体験できるよう

に構成していただきました。

第3回・4回:2014年3月2日(日)・9日(日)

講師:中島透

国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員

テーマ:日本語初級クラスでの指導案/教案の考え方・作成から実習」

2週間連続で、日本語初級者クラスでの指導案/教案についてお話してくださいました。動詞の「て形」を取り上げ、作り方、活用ノートの作成、異文化理解を踏まえた初級レベルの例文を考え、「て形」を用いた会話文を作成しました。その後、参加者同士でロールプレイをしました。参加者からの活発な質問に、丁寧に答えてくださいました。セミナー後も場所を1階ロビーに移して、熱心な参加者からの質問に快く答えてくださいました。

## 「効果的な母語別発音指導の方法」を受講して

楊 秋雅（中国からの留学生）

現在同志社大学の修士一年生である私は日本語を教えた経験がありませんが、いままで自分の日本語の発音上の問題がとても気になっていました。そして、日本語教育に興味を持っているのでこの講座に参加しました。早稲田大学日本語教育センターの大久保先生から貴重な話をいただき、すごく勉強になりました。中国語だけではなく、英語と韓国語の母語話者の発音における問題点や、効果的な指導方法など易しく解説してくださいました。とくに先生は音声指導の初段階でイントネーションとアクセントなどの音韻知識を導入する必要性を強調され、シャドーイングを通じての発音指導の方法を説明してくださいました。授業例で、「そうですか」というあいづちはイントネーションの違いで話し手のいろいろな気持ちが伝えられるということを知り、ことばの持つ力や日本語のおもしろさを感じさせられました。そして、今度の講座に参加した多くの先生からいろいろな経験談やアドバイス、励ましの言葉をいただ

きました。私には大切な宝物です。ありがとうございました。

## 「日本語初級クラスでの指導案/教案の考え方・作成から実習」を受講して (RT)

このセミナーで中島先生のお話を伺うまで、「て形」を教えるのは難しそうという先入観をもっていました。しかし、動詞の活用はセットで教える、「動詞の木」をつくる、動詞の活用を一覧にした活用ノートを作るなどの指導方法を教えていただき、指導の具体的なイメージをもつことができました。また、なんのために「て形」を作るかというお話も印象的でした。その他にも、場に応じた自然な会話の必要性、実践に役立つカードの作り方、TPRの実例など多くのことを学ぶことができとても充実した二日間でした。

## ■ 第 36 回日本語エッセーコンテスト 《私の見た日本と世界》

11月17日、5名の入賞者を錦繡の京都に、お迎えして第36回日本語エッセーコンテストを滞りなく開催することができました。

例年《私の見た日本と世界》をメインテーマとして、日本に住む日本語を母語としない人たちから日本語あるいは英語のエッセーを全国公募し、予備審査によって入賞作品を選び、京都において市民を集めて公開の口頭発表会兼本審査会を行い、優秀作品の作者を表彰してきました。（昨年度に予告したように、今年度からはしばらく日本語のエッセーに限って募集することにしました。）

今年度の日本語エッセーコンテストの発表会は、41編の応募作品の中から予備審査で選ばれた5名の入賞者によって行われました。「書かれた」エッセーに加えて口頭発表の評点、そして審査員や聴衆からの質問に対する応答ぶりも加味して、最優秀賞1名と優秀賞4名が決まりました。

## 最優秀賞

金采映（キム・チェヨン）韓国

「お墓、あなたは無言の師匠」

## 優秀賞

Nahed Almeriee（ナーヘド・アルメリ）シリア

「金子みすゞの詩作品から見えてきた日本人の人間らしさ」

Ramona Taranu（ラモーナ・ツァラヌ）ルーマニア

『和』の文化を世界に」

南鉉城（ナム・ヒョンスン）韓国

「おもてなしの国、日本」

Rahamana Nur Arini（ラーマナ・ヌル・アリニ）インドネシア

「日本人の心で世界平和へ」

最優秀賞の金采映さんは、韓国ご出身で宝塚市在住の中医師・鍼灸師。日本の町中のどこにでもあるお墓や日常の生活の中にある仏壇などは、来世観のない現世指向的な、死をタブー視する儒教の中で育った韓国人には少し怖い存在だったようです。しかし、日本で暮らすうちに、幸せな死とは残された家族や友人たちに良い思い出をたくさん残してあげることだと思えるようになって、お墓はもう怖いものではなくなりましたと言われます。日常の暮らしの中で日本人の死生観を自然に感得されたようで、彼女の話は聴衆に深い感銘を与えました。



発表するキム・チェヨンさん

優秀賞の Nahed Almeriee さんは、筑波大学で日本文学を専攻するシリアからの留学生。母国シリアでは「魚は魚で、花は花でしょう」としか言いようがないのに、日本人は草木虫魚の名前をたくさん知っていて、それは教わるまでもなく日常生活の一部になっていることに驚いたと言います。花や鳥、魚に優しい目を向ける金子みすゞの詩に接して、日本の季節感、自然観、何が生であり何が死なのか、人間とは何か、人間を超えるものの存在などを深いところから問い直すことができ、この「言語の力」をもっと学びたいと締めくくられました。

Ramona Taranu さんは、600 年も前から伝えられてきた世阿弥のこばに触発され、演劇研究者になろうとルーマニアから留学してこられました。能や歌舞伎の魅力、和歌の穏やかさ、お茶の奥ゆかしさ、生け花の気品。こういう伝統芸術は同根の優美な思想 — 相手を喜ばせたいという思いやりの気持ち — から生まれてきたにちがいない。この「和」の文化によって、この世界の風景を和らげ、調和させる — それが日本文化の大事な、掛け替えのない役割だと主張します。

南鉉城さんは、奈良教育大学で教育学を研究されている研究者。日本での暮らしの中で、日本人から受けるおもてなし、一人一人相手を大事にするおもてなし、単に韓国から来た外国人ではなくナム・ヒョンスンという個人として大事にしてもらうおもてなし、これほど感動的なものはなかったと回想され、相手が本当に必要なものを探りながら相手の立場で考えるとき、そこに絆が生まれる、この絆で日本と世界がより良い関係になってほしいと結びます。

最後に、Rahmana Nur Arini さんは日本語学を専攻

するインドネシアからの留学生。中学校・高校ではインドネシアが日本の植民地にされた苦難の時代のことを学ぶので、日本でも同じ歴史を学んでいると思っていたが、そうではなかったようだと言われました。平和学習プログラムとして広島を訪れ、両国共に戦争での苦しみはきっと同じだったろうと理解し、それからはさまざまな平和活動に参加するようになった。日本人のおもてなしの心と礼儀正しさと「和」の文化を広めれば、日本人は世界平和に貢献できるだろうと思うと、経験から得られた心情を伝えてくださいました。

優秀賞の4編ともに、日本人らしい「和」の精神と「おもてなし」の心とを生かして、世界の平和にもっと貢献してほしいと訴えられているような気がしました。また、5人の発表者ともにたいへん高い日本語能力をお持ちであることに驚きを新たにしました。

なお、5編のエッセーの全文は、当協会のホームページに掲載しています。2002年度以降のすべての入賞作も掲載していますので、どうかご覧いただきたく思います。

今年度の審査は、加藤久雄（奈良教育大学教授）、齋木宣隆（国際交流基金京都支部長）、高木路子（当協会常務理事）、服部友彦（淡交社副社長・編集長）、廣瀬和子（当協会理事）及び細川武稔（池坊総務所中央研究所員）の6氏にお願いしました。全てのエッセーを丁寧に読んで予備審査と本審査にかかわっていただいたことに厚くお礼申しあげます。京都ライオンズクラブからは、もう7年目になりますが、財政的な支援をいただいております。また、国際交流基金京都支部、淡交社、松栄堂、スリーエーネットワークからは例年のようにすばらしい副賞を贈呈していただきました。合わせて厚くお礼申しあげます。



質問に答える発表者

## 2014年度のコンテストについて

2014年度も日本に住む日本語を母語としない人たちからの日本語のエッセーを全国公募しています。ご応募をお待ちしています。公募要項は5月下旬に発表します。詳しくは当協会のHP (<http://kicainc.jp/>)をご覧ください。

■ 当協会の運営を支えてくださっている団体・個人

協会役員

名誉顧問 千 玄 室  
 理事長 児 玉 實 英  
 評議員 岩 橋 忠 昭 小林 哲 夫 柴 田 重 徳  
 仁 田 一 明 \*西 村 公 雄 畑 正 高  
 二 股 茂 松 田 和 典 南 惠 美 子  
 森 純 一  
 理 事 大 野 嘉 宏 海 田 能 宏 加 藤 久 雄  
 黒 田 益 代 クレイグ・スミス 白 石 厚 子  
 高 木 路 子 田 中 耕 司 畑 肇  
 \*八 田 英 二 廣 瀬 和 子 松 井 雄  
 森 金 次 郎  
 監 事 粟 津 宣 之 長 谷 川 彰  
 顧 問 稲 盛 和 夫 \*尾 池 和 夫 大 倉 治 彦  
 柏 原 康 夫 河 内 秀 則 金 剛 永 謹  
 立 石 義 雄 村 田 純 一 森 田 嘉 一  
 参 与 荒 木 不 二 洋 猪 野 愈 玉 村 文 郎  
 (\*印は2014年度就任予定)

法人維持会員

(一財)池坊華道会 オムロン株式会社  
 ガリオア・フルブライト京滋同窓会 京セラ株式会社  
 京都外国語大学 (株)京都銀行 京都信用金庫  
 月桂冠株式会社 公益社 (財)今日庵  
 サントリーホールディングス株式会社 (株)松栄堂  
 (株)淡交社 (一財)不審菴 佛教大学  
 村田機械株式会社 (株)ワコールホールディングス

会員

浅田 恭子 畔川 善行 荒木不二洋 池田ゆかり  
 伊藤紀美江 伊藤公雄 井上 章子 今井菜穂子  
 入江由美 岩橋忠昭 上野和美 上羽淑枝  
 遠藤優子 大住倫美 大西智恵美 大野嘉宏  
 太田あつ子 大橋敏子 岡田素子 桶屋和伸  
 海田能宏 海田礼子 笠井陽介 加藤剛  
 加藤久雄 加藤寛子 川越さつき 木崎晴美  
 木村富士子 木村隆夫 北林政子 京都新聞社  
 久米洋子 クレイグ・スミス 黒田益代 黒田侑里  
 小崎幸子 児玉和美 児玉實英 小林繁代  
 小林哲夫 駒井節夫 財間敬子 坂牧 藍  
 坂本真司 相模真知子 佐野公美 澤井弘子  
 澤木福男 塩寄弘子 柴田重徳 柴山尚之  
 白石厚子 白神睦子 志和晃二 末満健二  
 高木路子 高岸雅子 武田素子 竹谷妙子  
 建部啓子 谷口和代 田中富美子 玉村文郎  
 田村礼子 壇正子 反保良子 辻加代子  
 土屋彰子 鶴屋吉信 内藤純子 西田ふみ江  
 西本道子 野口千代子 河英伊 拝師照代  
 長谷川彰 長谷川文子 畑肇 林美木子  
 坂野藍子 久富千鶴子 廣瀬和子 深井よう子

二 股 茂 古澤智子 牧 曜 子 前川和也  
 牧野恵理香 松下享代 松嶋洋子 松田和典  
 松村知子 松本那々子 丸池暢穂 水野あづさ  
 水野幸子 水野美子 南惠美子 溝口崇子  
 宮下雅代 宮地法子 村上裕子 村田美佐子  
 本井葉子 森金次郎 森 純 一 森 吉 彦  
 山田順子 山下遥菜 横井初子 横田久美子  
 吉村紀雄 吉本有里 渡辺信弘 渡辺信一  
 和田美和子 和田康子

協力者

司法書士法人 絆 オフィス・ディー 藤井幸広  
 創作集団にほんご

共催・後援団体

京都府 京都市 京都市国際交流協会  
 国際交流基金京都支部 京都青年会議所  
 NHK 京都放送局 京都新聞社  
 朝日新聞京都総局 読売新聞京都総局  
 京都ライオンズクラブ (一財)池坊華道会  
 (株)淡交社 (株)松栄堂  
 (株)日本語の凡人社 (株)スリーエーネットワーク

スタッフ

荒木千枝子 伊藤紀美江 今井菜穂子 入江由美  
 高木路子 河 英 伊 久富千鶴子 廣瀬和子

編集後記

桜前線が日本列島を北上し、京都各所の桜の開花便りを楽しむ頃となりました。

当協会の主な事業の「基礎から学ぶ実践日本語教育講座」も二年目を終え、修了者によるボランティア日本語レッスンも順調に充実しています。国際交流プログラム、その他のプログラムも予定通り実施できました。

これからも各プログラムの参加者、日本語学習を希望する人々の期待に応えられる活動を目指してまいります。ご支援、ご協力いただいている全ての方々に深く感謝申し上げます。(MT)

一般財団法人 京都国際文化協会

〒606-8546

京都市左京区粟田口鳥居町 2-1

京都市国際交流会館 3F

Tel.:075-751-8958

Mail :kica@kicainc.jp

Fax:075-751-9006

URL:http://kicainc.jp/

理事長 児玉 實英